

長岡市地域公共交通総合連携計画 (案)

平成22年2月

長岡市

【今後の理念】

事業者だけでなく、行政・市民等（地域・住民、学校、企業など）
の三者が連携・協働して公共交通をまもり育てます。



【これからの三者の役割】

交通事業者	<ul style="list-style-type: none">・ 利用者のニーズを踏まえ、公共性に配慮したサービスを提供する・ 安全・安心な運行を行う・ 採算性向上に対する不断の経営努力を惜しまない	
行政	<ul style="list-style-type: none">・ 市全体の公共交通のあり方を検討する中心的な役割を果たす・ 公共交通基盤を大切にしたまちづくりを推進する・ 公共交通を利用しやすい環境づくりを主導する・ 必要な公共交通サービスを維持するための財政支援を行う・ 地域が運営する公共交通に関する情報提供・助言・調整に努める・ 公共交通の利用促進に向けた市民等への意識啓発を行う	
市民等	地域・住民	<ul style="list-style-type: none">・ 生活交通を持続するために公共交通を積極的に利用する・ 各地域に合った公共交通の計画づくりに主体的に参加する・ 地域の公共交通を支える運営に参加・協力する・ 公共交通利用への気運を高める
	学校	<ul style="list-style-type: none">・ 環境問題や高齢化社会への対応などの観点から公共交通利用の重要性に関する意識啓発に努める
	企業	<ul style="list-style-type: none">・ 公共交通基盤を大切にしたまちづくりに協力する・ 公共交通を利用しやすい環境づくりに協力する・ 社員へ公共交通利用を働きかける

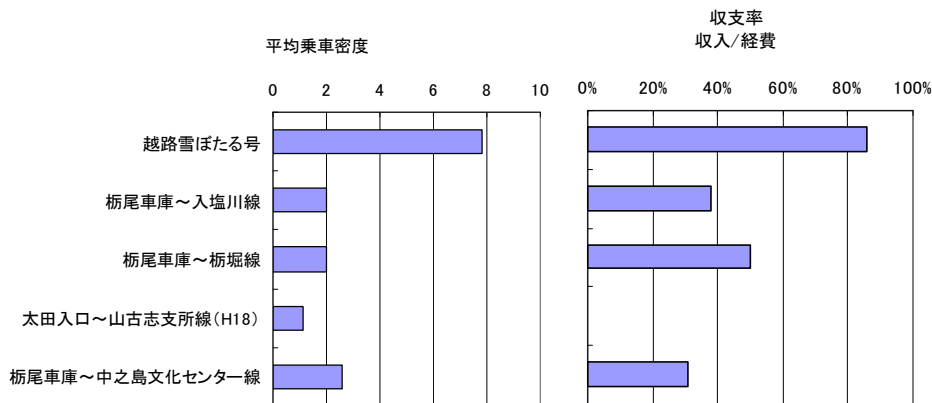
7-3. 周辺地域での検討

(1) 施策の方向の検討

○運行形態の見直し

【現況】

- ・ 平均乗車密度では、越路地域の雪ぼたる号が7.8人と高く、多く利用されています。
- ・ それ以外の路線の平均乗車密度は総じて低いです。
- ・ 収支の状況を見ると、越路雪ぼたる号が86%であるのに対して、他の路線は著しく低い値となっています。
- ・ 中之島地域、寺泊地域、和島地域の市街地（集落）の一部に公共交通のサービスが受けられない空白地域が存在します。



小国地域内路線は福祉バスとして無料運行されています。
山古志地域内路線は、平成19年12月に不採算を理由に路線バスが廃止され、現在は、NPOが主体となってクローバーバスが運行されています。

図7-15 平均乗車密度、収支の状況

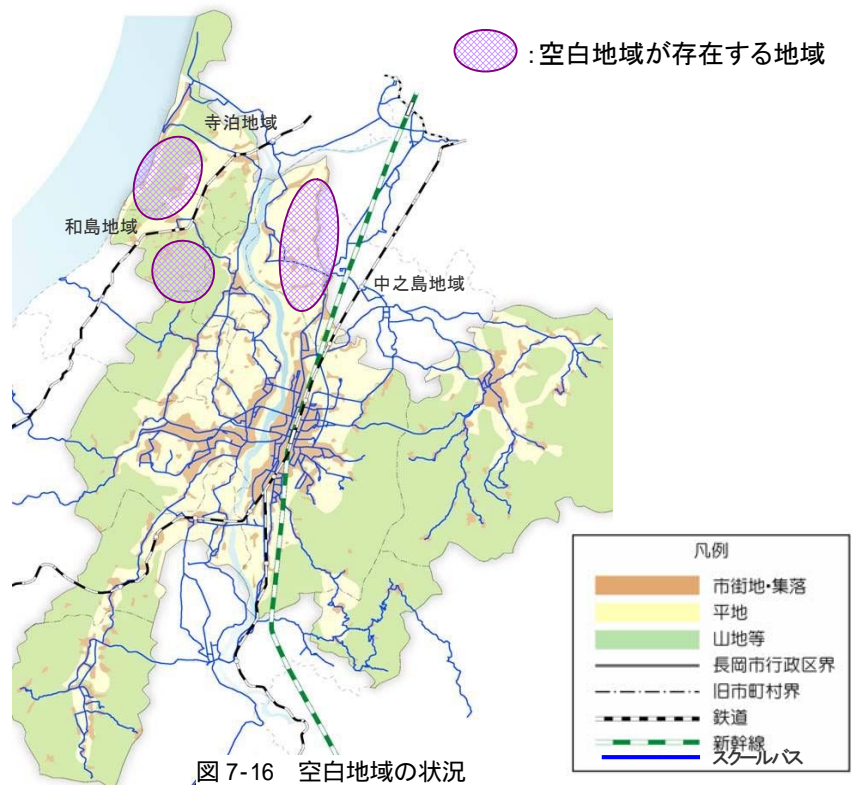


図7-16 空白地域の状況

(2) 具体的な施策案

○運行形態の見直し

一定の利用がある路線については、路線バスを維持しますが、利用実態に応じて効率化を検討します。

- ・日中の減便、日曜・祝日の減便、隔日運行等の効率化を図りながら、運行を維持します。

利用が少ない路線については、住民が主体となった運営を検討します。

- ・NPO 等によるコミュニティバスの運行を検討します。
- ・住民が主体的になって取り組むことで、住民の使い易い公共交通が効率的かつ効果的に運営できます。

公共交通の空白地域においては、住民が主体となった運営や既存のスクールバスへの混乗などを検討します。

- ・住民主体の運営の検討にあたっては、最寄りの鉄道駅や運行頻度の高い基幹路線のバス停への接続を基本に考えていきます。

スクールバスへの一般市民の混乗にあたっては、地域の合意形成が図られることが前提となります。

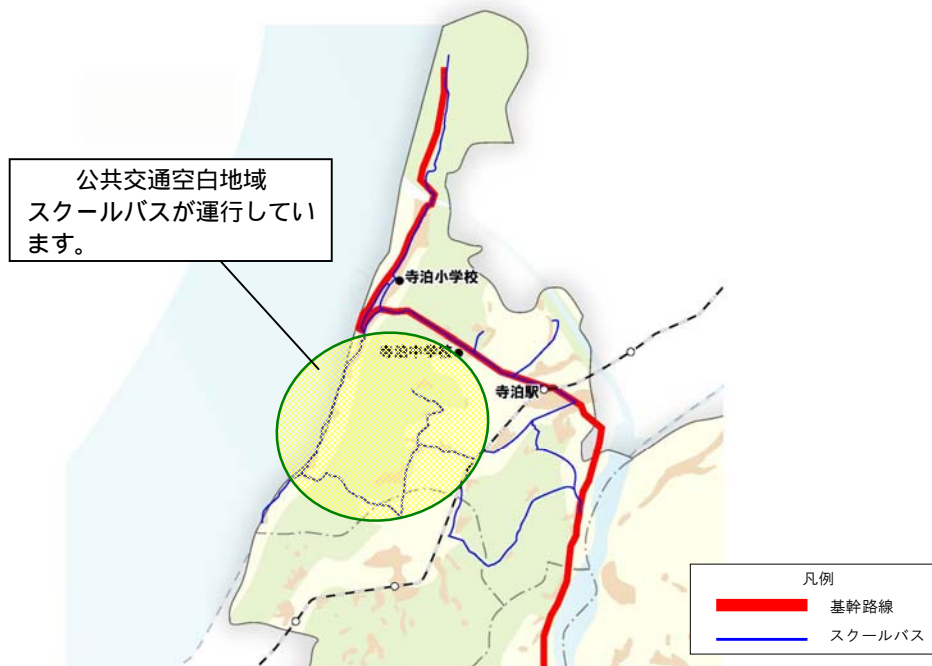


図 7-17 寺泊地区の公共交通空白地域の現状